

「地震は休日や夜間に起こりやすいのか」

先月の避難訓練では、休み時間に大きな地震が発生した想定で実施した。地震は授業中だけでなく、休み時間や登下校の時間にも発生する。先日のNHKのニュースで「災害は休日や夜間に多たってほんと？」という話題が流れていた。そのネット記事のうち、地震については次のように書かれていた。

地震について見てみると、過去20年間に発生した震度5弱以上の揺れを伴う地震は289回あった。これを曜日別に見ると、最も多いのは土曜日で68回、次に多いのが、金曜日で48回と週末に多いことが分かる。また、時間帯で見ると、最も多いのが23時台で22回、次いで18時台が18回という結果だった。これだけ示すと、確かに地震は、休日や夜間に多いということになってしまう。専門家の意見では「地震は気まぐれであり、いつ起きてもおかしくない」という。偶然、この20年間でみれば、休日や夜間に多かっただけなのだ。ちなみに、27年前の阪神淡路大震災は火曜日の早朝に発生しているし、記憶に新しい東日本大震災は金曜日の午後2時46分であった。

一方、専門家は地震が起きやすい時期というのは確かに存在すると指摘する。大きな地震が発生した後は、余震が続き、地震が発生しやすい。そのうえで地震を予測するのは難しく、「いつ起きやすいのか」を考えるのではなく「いつ起きてもいいような日常的な備え」が必要だという。「人は日中仕事や学校で外出していても、夜に寝ている時間を含めれば自宅にいる時間が長い人が多い。そういう意味では、家、特に寝室の耐震化を進めることは防災の観点では重要だと言える」と話す。

休日に家庭でくつろいでいるときや、寝ているときに揺れると、怖さが増幅し、結果的に記憶に残りやすい。だから、地震は休日や夜間に発生しやすいと思われてしまう。実際には、地震はいつ起きるか分からない。どんなときでも冷静に行動できるように、いざというときのことを考えておこう。

12月7日 校長 鈴木 幸雄

◆問題 直角をはさんだ辺の長さが8cmと5cmの二つの同じ大きさの直角三角形を、図のように直角部分を重ね合わせます。重なった部分の四角形アの面積を求めなさい。

